

## 吉田豊彦先生、ありがとうございました



日本透析医会の発展に大きな貢献を果たされた吉田豊彦先生が平成30年12月3日にご逝去されました。

先生は千葉大学医学部をご卒業後泌尿器科学教室に入られ、透析医療の道に進まれました。昭和40年代、千葉県は透析医学のメッカで、人工透析研究会の事務局は千葉大学に置かれ、県内には日本を代表する透析施設が誕生しました。その一つが吉田先生が昭和50年に設立された「千葉泌尿器クリニック」で、これを母体に医療法人 誠仁会へと移行し、現在の「みはま病院」を中心とする透析医療グループに発展しました。もう一つの千葉県の代表的透析施設が昭和48年に故鈴木満先生が設立された東京クリニックで、東葛クリニックグループへと成長を遂げておいでです。

冒頭に千葉県の日本を代表する2つの透析医療グループを紹介した理由は、この二つの組織を誕生させた吉田豊彦先生と鈴木満先生が、日本透析医会の今日の礎を作られた貢献者だからです。吉田先生は、都道府県透析医会が日本透析医会へ移行後の昭和62年から理事を務められ、法人化される前年の平成元年からは常務理事として故鈴木満先生、故山川真先生とともに、運営に携わってこられました。そして平成15年からは副会長として6年間医会のかじ取りを担い、副会長退任後も理事として私ども後進の指導に当たられました。

先生の数あるご業績の中でも、特筆すべきは災害時情報ネットワークシステムの構築です。先生は日本透析医会最大の事業である災害対策委員会の初代委員長でした。当初医会は災害対策を目的に透析患者データベースの作成を試みましたが、しかし、平成7年の阪神・淡路大震災でこのデータは有効に利用されず、これを教訓に現在の情報ネットワークが導入されました。このネットワークの原型こそ、「みはまグループ」を中心に構築された千葉県の臨床工学技士会の連絡網でした。

診療報酬改定でも先生は大変なご活躍をなさいました。昭和63年に新設されたRO装置を用いた水処理加算は、アルミニウムによる透析脳症や骨軟化症を経験された当会第2代会長平澤由平先生が強く要望し、吉田先生のご努力で実現したものです。平成4年には、透析液や抗凝固薬の技術料への包括が厚生省から求められ、この点数を算出されたのも吉田先生のお仕事と聞いております。そして平成14年の小泉改定では、エリスロポエチン製剤の技術料への包括化が日本医師会や日本透析医学会の反対を押し切り実施され、包括化しても貧血の治療水準に悪化を認めないという、日本の透析医の良心を証明したのも、吉田先生や3代目山崎親雄会長のご業績です。

わが国透析医療の発展に大きく貢献された先生が旅出たれ、ここに日本透析医会は設立当初からの執行部として活躍されたすべての先生を失ったこととなります。

日本透析医会は先生の御遺志を受け継いで、わが国透析医療の発展に、微力ながら努力して参ります。吉田豊彦先生、長い間ご苦勞さまでした。また、ありがとうございました。どうか安らかに眠りください。

平成31年3月

(日本透析医会会長 秋澤忠男)

### 【略歴】

吉田 豊彦 (よしだ とよひこ)  
1937年8月15日生

1965年  
千葉大学医学部卒業

1966年  
千葉大学医学部泌尿器科教室入局

1972年  
松戸市立病院泌尿器科部長

1975年  
千葉泌尿器科クリニック開設

1979年以降  
医療法人社団誠仁会理事長

千葉県透析医会 副会長・会長・  
名誉会長

日本臨床泌尿器科医会 常務理  
事・副会長・監事

1987-1989年  
日本透析医会理事

1989-2003年  
日本透析医会常務理事

2003-2009年  
日本透析医会副会長

2009-2018年  
日本透析医会理事